

最近経験したレジオネラ肺炎の2症例

なが み はる ひこ¹⁾ かわ さき ゆう じ²⁾
長 見 晴 彦¹⁾ 河 崎 雄 司²⁾

キーワード：市中肺炎，レジオネラ肺炎，意識障害

要 旨

今回、市中肺炎の原因菌としては比較的珍しいレジオネラ肺炎の2症例を経験した。症例1は64歳，男性，主訴は高熱，咳，軽度意識障害であり大の温泉好きであった。症例2は65歳，男性，主訴は高熱，咳，意識障害であった。既往歴としてC型慢性肝炎に罹患していた。2症例とも尿中レジオネラ抗原の検出によってレジオネラ肺炎と診断され抗生剤にて軽快した。

市中肺炎の原因としては稀であるが，レジオネラ菌による非定型的肺炎は劇症型経過を辿ることもあり，その疾患の存在にも十分な注意を払う必要があると考えられた。

はじめに

市中肺炎，院内肺炎それぞれに対する診断，治療に関するガイドラインが日本呼吸学会から発表されており，ガイドラインを適切に使用するために，最新の肺炎の原因菌ならびに耐性状況を把握しておくことは重要である。市中肺炎の原因菌検索は他部位の感染症に比較すると困難な事が多い。様々な報告では原因菌が明らかにされる場合は全体の40—60%程度でしかない。そのうち細菌によるものが約70—80%で，残りはウイルス性によるとされている¹⁾。対象集団の相違や疫学調査時の流行など影響はあるもののいずれの結果にお

いても肺炎球菌とインフルエンザ菌が多数を占め，さらにクラミジアやマイコプラズマといった非定型肺炎が続く傾向にある。しかしながら市中肺炎の原因微生物のうち非定型肺炎の原因菌であるレジオネラ菌肺炎は稀である²⁾。レジオネラ感染症は1976年米国フィラデルフィアの在郷軍人会で集団発生したのが最初であり³⁾，わが国では1981年の齊藤らの報告が最初である⁴⁾。今回この1年間に2例のレジオネラ肺炎を経験したのでその詳細を文献的考察を加え報告する。

症 例

症例1：65歳，男性

主訴：発熱，咳，軽度意識障害

職業：職人

現病歴：平成17年12月下旬より発熱，咳，全身倦

Haruhiko NAGAMI et al.

1) 長見クリニック 2) 松江赤十字病院呼吸器内科
連絡先：〒699-1311 雲南市木次町里方633-1